

(4) 授業と家庭学習を効果的に連動させた学習指導

👉 「学校で行う学習」と「家庭で行う学習」を関連させた単元の学習指導計画の作成

- 限られた時間で効果的に学習指導を行うには、学校で行う学習活動の重点化が必要となります。
- 教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合いが重要となる学習への動機付けや協働学習、また学校でしか実施できない実習等は、授業で行うことが不可欠です。

学校で行うことがふさわしい学習（例）	家庭で進めることも可能な学習（例）
<ul style="list-style-type: none"> ○新しい知識・技能を習得する。 ○それぞれの考えを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いによる交流（配慮が必要） ・掲示物や通信等による紙面での交流 ○振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・自己の学びの変容を自覚する。 ・次の学習に対する動機付け 	<ul style="list-style-type: none"> ●習った知識・技能を確実に身に付ける。（反復、練習等） ●習った知識・技能を使って考える。（活用、発展等） ●教科書や資料等を読んだり、調べたりする。（内容の理解、確認等） ●実際にやってみる。（製作、演奏等）

授業と家庭学習を関連付けた学習指導の工夫により、**限られた授業時数の中で効果的に指導**することができます。



授業と家庭学習の計画の例（算数）

第6学年 「分数と整数のかけ算、わり算」（A（1）分数の乗法、除法）

小単元1 「分数に整数をかける計算」

- ① 分数×整数の計算の仕方
- ② 分数×整数で約分をする場合の計算の仕方
- ③ 帯分数×整数の計算の仕方

小単元2 「分数を整数でわる計算」

- ④ 分数÷整数で分子を割りきることができる場合の計算の仕方
- ⑤ 分数÷整数で分子を割りきることができない場合の計算の仕方
- ⑥ 帯分数÷整数の計算の仕方
- ⑦ 分数と整数のかけ算、わり算のまとめ（単元末問題）→週末課題

月	火	水	木	金	土日
学校	家庭学習	学校	家庭学習	学校	家庭学習
①分数×整数 ②分数×整数 （約分あり）	①～②の内容に関する練習問題で定着を図る （10～20分）	④分数÷整数 ⑤分数÷整数 （約分あり）	④～⑤の内容に関する練習問題で定着を図る （10～20分）	③帯分数×整数 ⑥帯分数÷整数	③と⑥の内容に関する練習問題で定着を図る （10～20分）
学校	家庭学習	学校	家庭学習	学校	家庭学習
⑦分数と整数のかけ算、わり算のまとめ					

□家庭で、計算の反復練習に取り組ませることで、単元の配当時間7時間を4時間程度で行うことができます。学級の子もたちの実態を考慮した上で進める必要があります。

□家庭学習における児童生徒の学習状況については適切に把握し、**定着が不十分な児童生徒に対しては、個別の指導を行う**ことが必要です。

授業と家庭学習の計画の例（国語）

指導事項〔C 読むこと 才〕

文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

＜教材「大人になれなかった弟たちに……」 光村図書＞

曜	月	火	水	木	金	土日
1週目	学校	家庭学習	学校	家庭学習	学校	週末課題
	＜第1時＞ 学習課題を知り、 自分の考えをもつ ※学習の手引き、ワークシート の活用	＜第2時＞ 時代背景や出来事に注意しながら読み、僕の生活についてまとめる	＜第3時＞ 情景描写や行動描写に注意しながら読み、登場人物の心情についてまとめる	＜第4時＞ ※授業で学習の進め方を確認し、残りは家庭学習で行う	＜第5時＞ 作者の伝えたかったことについて自分の考えをまとめる（※交流）	「漢字を確認しよう」 ワーク等 ※学習した内容の確認
2週目 ※次單元	家庭学習	学校	家庭学習	学校	家庭学習	週末課題
	次単元の教材を読み、分からない語句を辞書で調べる	（※次單元） 学習課題を知り、自分の考えをもつ	（※以下省略）	（※以下省略）	（※以下省略）	（※以下省略）

- 学習の見通しを持たせたり、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする学習は学校の授業で行うようにします。
- ワークシートや手引き等を作成し、家庭学習の状況を指導者が見取り、適切な支援につなげられるようにしておきましょう。



家庭学習を計画する際の留意点

- 単元や1単位時間の学習活動を通して、何を身につけさせたり、育んだりしたいのか、今まで以上に目標の絞り込みと明確化が必要となります。今まで行ってきた1単位時間の授業の一つ一つの活動の意味を考え、家庭で進めることが可能な内容について検討します。
- 学校で行う学習活動と家庭で行う内容の組み合わせや、児童生徒の学習状況を考慮して、適切な家庭学習を課すことが求められます。その際、教科担任間の連携を密にし、1日の家庭学習が児童生徒にとって過重にならないよう配慮することも必要です。
- 家庭学習を課す際は、主たる教材である教科書を中心に、教科書と併用できる教材等を適切に組み合わせることが大切です。

（家庭学習の例）

紙のプリント教材、テレビ放送（NHKのEテレ等）、教科書発行者などが提供するICT教材、動画等を活用した学習、オンライン指導を通じた学習 等

👉 学習活動の重点化における留意点

限られた授業時数の中で、効果のある指導を目指す。

- 児童生徒の実態を踏まえ、何を目的に、どのような学習が必要なのかを検討した上で、学習活動の重点化を図る。
- 協働学習など、学校でしかできない学習活動については授業で扱い、個人でも実施可能な学習活動等は、授業以外の場で実施する。

例：学力調査等で把握した児童生徒の実態から学習活動の重点化を図る

【国語】

▲文章や発話によって自分の考えを表現する力に課題がある。

実態

「自分の考えを表現する力」の育成

国語科では、あるテーマに沿って本や新聞など複数の資料を活用しながら、調べたり考えたり表現したりする学習活動に重点的に取り組む。

【授業では】

めあてを確認して学習の見通しをもつことや、ワークシート等にまとめた自分の考えを発表して友達と交流する学習を行う。

【授業以外では】

教科書にある教材や資料を読み、ワークシート等に自分の考えをまとめる。

重点化

教科書における発展的な内容については、児童生徒の理解や習熟の程度に応じて必要に応じて学習する。

感染拡大の状況にかかわらず、子どもたちの学びを最大限に保障